

1. おはようございます。私はスウィート・リチャードと申します。キャップストーンタイトルの「ソーシャルネットワークに関する意識調査：日米大学生の比較」です。どうぞよろしく願いします。

2. こちらは概要です。

3. なぜこの研究をするかという理由は：

- 桜美林大学に留学していた時、日本人の友人は私が一度も使用したことが無いソーシャルネットワークを使っていて
- 使用すればするほど、日本ではソーシャルネットワークの利用時間や投稿された内容の適切さはアメリカと異なると思いました。
- この経験から、この研究ではソーシャルネットワークに関する日米の大学生の相違点を調査し、つまり、ソーシャルネットワークの使用頻度や倫理などについて研究しました。

4. こちらは研究質問です。

1. 「ソーシャルネットワークは大学生のコミュニケーションの取り方にどの様に影響を及ぼしているのか。」です。
2. 「ソーシャルネットワークに投稿するにはどのような内容が適切なのか。また、それはなぜか。」です。

5. では、研究背景です。

6. オンラインのウェブスター辞典によると「ソーシャルネットワーク」とは「オンラインサービスかサイトを通して人間関係を築いたり、保ったりすることが出来る。」と定義されています。

ここから、「ソーシャルネットワーク」の代わりに、「SNS」という言葉を使っていきます。

7. このスライドでは SNS の種類についてお話しします。よく使う SNS はそれぞれの国によって多少違いますが、共通の SNS もたくさんあります。

Facebook と Google+ と ツイッター は日本とアメリカで使用されている SNS として有名です。

しかし、その国特定の SNS もあります。例えば、アメリカでは tumblr や instagram などが人気がありますが、GREE や LINE という SNS は日本人だけが利用しています。

8. SNS を使って、人間関係を保つことには色々な方法があります。例えば、コメントに「いいね！」をしたりすることなどが挙げられます。

Ellison によって進められた研究によると、ネットワーク内の平均の「友達」の人数は 207 名でしたが、実際の友人は 76 名でした。

SNS では「友達」になる為には、ボタンをクリックするだけで、ネットワーク内でコメントやプライベートメッセージを通してコミュニケーションが取り易く、人間関係を維持する為のコストは低いです。

9. 人間関係を保つこと以外の他のモチベーションで SNS として、内発的なモチベーションといえ、**「エンジョイする為」**です。つまり、自己を満足させることです。

また、外部からのモチベーションという「友達」の人数です。すなわち、「友達」の人数が増せば増すほど SNS の使用頻度が高まるということがわかっています。

SNS を使うモチベーションはその SNS を使っている全体の人数によるものではなく、むしろ自分のネットワーク内に入っている「友達」の人数によることがわかっています。

ここでまとめてみると、「なぜ SNS を使っているのか」という理由は、人間関係を保つことだけではなくて、自分のネットワークを広めたいということに刺激されていると言えます。

10. 次に、SNS と教育について話したいと思います。2011年に名古屋文理大学によって進められた研究は、SNS を教育環境で使うということでした。

「ソーシャルラーニング」に使用された二つのプログラムはツイッターと **Libra** でした。

ツイッターで学生と意見を交換したり、**Libra** という教育ツールで教科書をアップロードしたり、ノートなどを通して教授と学生が対応できるようになりました。

その結果、ソーシャルラーニングは教育に役立つと思う人が 85% と非常に高かったです。

また、学生と先生の間関係を築く為には、SNS を上手に使用した方がいいと言えるかもしれません。

11. 次にネットいじめについてお話しします。ネットいじめとは「無名の加害者が特定の人物についてネット上へいじめの投稿をすること」とウェブスター辞典に定義されています。

三枝によって進められた研究は、ネットいじめと従来型いじめの頻度を比べました。その結果、ネットいじめの頻度が高まっていく可能性があると言いました。

アメリカでは **Barlett** が日本とアメリカのネットいじめを研究をしました。そこで、ネットいじめの事件は日本でもアメリカでも増えていますが、アメリカの方がネットいじめをする可能性が高いという傾向があると報告しています。

しかし、ネットいじめの事件が増えているのは、匿名で自由に投稿が出来る為、対策を行いにくいのが現状です。

1 2. では、研究方法について話したいと思います。アメリカ人 3 3 名、日本人 3 0 名の合計 6 3 名の被験者にアンケート調査を実施いたしました。

1 3. では、研究質問 1 は、ソーシャルネットワークは大学生のコミュニケーションの取り方にどの様に影響を及ぼしているのか、でした。

1 4. **SNS** を通して、「美味しい食べ物を食べたこと」と答えたアメリカ人は 3 5 % にすぎません。一方では、日本人は 7 0 % とかなり上回っています。

1 5. 次に一日に 3 0 分以上費やすコミュニケーションに関してです。この数値は、日本人の大学生は **SNS** に長い時間を費やして、アメリカ人の大学生は携帯メールでのコミュニケーションに時間を取っていることを示しています。

1 6. この図は **SNS** で嬉しくなったり、落ち込んだりすることに関しての結果です。アメリカ人が「写真に沢山コメントを貰う」

と「メッセージが既読になり、返事が来ない」という場面に対して反応しましたが、強い反応ではないと言えます。

17. その反面、日本人の大学生の方は、「良いポストを投稿したのに、『いいね』をされない」という場面以外は、一般的には日本人の方がアメリカ人より嬉しくなったり、落ち込んだりするというリアクションが多かったです。

18. 毎日の生活で日本人の大学生の93%は最低でもSNSはある程度必要だと思っているようですが、アメリカ人は60%に留まっています。

19. SNSに頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が失われているということに対して「非常にそう思う」と「そう思う」と回答したアメリカ人は73%に上っていますが、日本人は50%を下回っています。

20. ではここで研究結果1のまとめをします。

- 日本人の方がアメリカ人よりSNSの使用時間は長く、また、様々なことについて投稿頻度が高いと言えます。
- ソーシャルネットワークに関する出来事に対して、ポジティブにしるネガティブにしる日本人の方が反応をすることもわかりました。
- 両方のグループはSNSのある程度の必要性に賛成しましたが、アメリカ人の方がコミュニケーションの一部としてSNSを頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が次第に失われてくると強く感じていると言えます。

21. 続いて、研究質問2はソーシャルネットワークに投稿するにはどのような内容が適切なのか、また、それはなぜかでした。

22. 「交際ステータス」の変更についてアメリカ人の大学生半分以上の人は3ヶ月未満で「交際ステータス」を変更するのが適切だと思ふことがわかりました。一方で、日本人の大学生は「何も書かない」という回答が最も多いです。

23. SNSの就職への影響としてSNSに投稿する内容が就職に影響を与えらると思ふ日本人は27%にすぎません。その反面、アメリカ人は日本人の2倍も影響があると思っています。

24. 許可なしの写真の投稿に関してこのグラフから許可を貰わず、他人が写っている写真をアップロードすることに対しては、両方のグループが同じように非倫理的であるということに賛成することがわかります。

25. また、SNSを使って、家族や友人への非難について日本人の大学生の方がアメリカ人の大学生より非倫理的だと述べています。

26. 政治的抗議運動の撮影について半分以上のアメリカ人がそのビデオをアップロードするのは倫理的だと答えました。その反面、半分の日本人は意見を持っていませんでした。

27. 次にこの場面だけ、日本人とアメリカ人の回答が異なりました。アメリカ人は、「憲法を通しての権利」また、「言論の自由」という回答が最も多い倫理的な主張でした。その反面、「わからない」と答えた日本人の50%は経験が無いからよくわからないということを理由に挙げました。

28. 友人の意識について色々な回答がありましたが、日米の学生は友人が周囲を気遣いながら投稿していると感じています。

29. 一方で、自分の意識に関して、前の質問と比較すると、アメリカ人は周囲の見解に対して敏感で、「あまり意識しない」と

「全く意識しない」と回答した人は18%に留まります。その半面、ほぼ半分（47%）の日本人の回答者は他人の見解を意識していないと答えました。

30. ここで、研究結果2のまとめをします。

- アメリカ人の学生は圧倒的になるべく早く SNS の交際ステータスを変更するのが適切だと考えていますが、ほとんどの日本人の学生は「交際ステータス」を書くこと自体が適切ではないと考えていることがわかりました。
- また、アメリカ人の方が SNS に投稿する内容が就職に影響を及ぼすと考えていることは興味深いと思いました。
- 日米の大学生はともに SNS を通しての批判や写真の投稿に倫理性が必要だということに同意しています。しかし、SNS で政治的な見解を表すことに対しては二分しています。アメリカ人は、政治的な問題に関して投稿することは言論の自由の下に保障されていると考える傾向があります。一方で、日本人は政治に関して無関心だと言えると思います。
- 最後に、日本人の学生の方が SNS に投稿された友人の見解に対して、あまり意識していないようだという事も解りました。

31. 結論です。

- 日本人の学生の方がアメリカ人の学生より SNS の必要性を感じています。従って、SNS により長い時間を費やしたり、家族や友人とのコミュニケーションを取る手段として使っていて、SNS の出来事に対して感情的なインパクトを強く感じています。この結果、日本人の学生のコミュニケーションの取り方の方が SNS により強く影響を受けています。

- 興味深いことに、日本人の学生の方が SNS の必要性を感じているにもかかわらず、SNS に投稿する際、個人的、または仕事上のことにダメージを受けるおそれがあるということをおそらくあまり意識していません。
- 日米の大学生はともに評判を落としたり、障害を起こしうる主張や写真などを投稿するのは非倫理的だと感じています。

3 2. 最後に考察です。

- 研究における限界点として
 - アンケートの参加者は大学生のみの為、得られた結果が限られたものである可能性があります。
 - そして、倫理観に関する問題の種類が少なかったため、結果が詳細にわかりませんでした。
- 将来の研究課題について
 - 社会的な見解を理解する為にも、大学生だけではなく、世代が違う人達にも参加してもらいたいと思います。